

## 1. 略歴

1998 年 4 月      東京大学教養学部 文科三類入学  
2002 年 3 月      東京大学文学部思想文化学科 倫理学専修課程卒業  
2002 年 4 月      東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻 倫理学専門分野修士課程入学  
2005 年 3 月      同 修了  
2005 年 4 月      東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻 倫理学専門分野博士課程進学  
2008 年 3 月      同 単位取得退学  
2008 年 4 月      日本学術振興会特別研究員 (PD) (～2011 年 3 月)  
2011 年 2 月      博士号 (文学) 取得 (東京大学)  
2013 年 4 月      新潟大学人文社会・教育科学系 准教授 (～2017 年 3 月)  
2015 年 4 月      放送大学 客員准教授  
2017 年 4 月      専修大学文学部 准教授 (～2019 年 3 月)  
2019 年 4 月      東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

倫理学原理論・近現代西欧倫理思想

### b 研究課題

言語、心、行為をめぐる諸概念の倫理学的考察

### c 概要と自己評価

英語圏とドイツ語圏における近現代の哲学・倫理学全般を研究しているが、特に重点を置いて取り組んでいるのはルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインである。彼の思考の全体像を把握する試みを中心軸に据えつつ、主に倫理学的関心の下で、関連する言語論や心の哲学、行為論といった分野に関する研究も展開している。その方向性は大きく分けて、ウィトゲンシュタインの「以後」と「以前」に分かれる。「以後」に関しては、主にドナルド・デイヴィッドソン、スタンリー・カヴェル、バーナード・ウィリアムズといった、ウィトゲンシュタインの影響を受けた英語圏の哲学者・倫理学者の思考を検討している。「以前」に関しては、ゲーテ、ショーペンハウアー、カール・クラウスといった人物がウィトゲンシュタインに与えた影響および相違と、そこから見えてくる視角を追っている。

また近年では、運と道徳の相克、また、懐疑論と実在論の相克という大枠の問題圏をめぐって、古代から現代に至る倫理思想史全体を振り返る作業も進めている。

### d 主要業績

#### (1) 著書

単著、古田徹也、『はじめてのウィトゲンシュタイン』、NHK 出版、2020.12

単著、古田徹也、『いつもの言葉を哲学する』、朝日新聞出版、2021.12

共著、瀧川裕英 (編著)、古田徹也、岡崎晴輝、坂井豊貴、飯田高、『くじ引きしませんか?——デモクラシーからサバイバルまで』、信山社、2022.6

#### (2) 論文

古田徹也、「くじ引きは (どこまで) 公正なのか——古代と現代における空想的事例をめぐって」、『法と哲学』、第 7 号、77-104 頁、2021.6

古田徹也、「自由意志の有無について考える前に考えるべきこと」、『現代思想』、2021 年 8 月号、2021.7

古田徹也、「前期ウィトゲンシュタインにおける「意志」とは何か」、『現代思想』、Vol. 49-16、105-116 頁、2021.12

#### (3) 書評

武田砂鉄、『わかりやすさの罪』、朝日新聞出版、『群像』、75 (12)、612-613 頁、2020.11

宮野真生子、『出逢いのあわい』、堀之内出版、『社会と倫理』、第 35 号、239-244 頁、2020.12

川添愛、『ふだん使いの言語学——「ことばの基礎力」を鍛えるヒント』、新潮社、『波』、614、74-75 頁、2021.2

池田喬、『アメリカ哲学の体現者としてのハイデガー』、『何処から何処へ——現象学の異境的展開』、知泉書館、『フィロカル』、Vol. 6, No. 2、382-387 頁、2021.8

植原亮、『思考力改善ドリル——批判的思考から科学的思考へ』、勁草書房、『朝日新聞』、2021年10月30日付朝刊、読書面（25面）、2021.10

磯野真穂、『他者と生きる』、集英社、『青春と読書』、2022年2月号、52頁、2022.1

#### (4) 解説

古田徹也、『野矢茂樹『語りえぬものを語る』講談社学術文庫、481-495頁、2020.11

古田徹也、『監訳者解説』、『現代倫理学基本論文集III：規範倫理学篇②』、261-320頁、2021.8

古田徹也、『これは、まぎれもない哲学書である：『ハイデガー『存在と時間』を解き明かす』について』、『NHK出版〈本がひらく〉』、2021.10

古田徹也、『監訳者解説』、『現代倫理学基本論文集II：規範倫理学篇①』、215-265頁、2021.12

古田徹也、『〈言葉大切に〉とは何をすることなのか』、『一冊の本』、2022年1月号、6-7頁、2022.1

古田徹也、『ウィトゲンシュタイン哲学の「新しい」相貌』、『ウィトゲンシュタインと言語の限界』ピエール・アド（著）、合田正人（訳）、講談社、2022.6

#### (5) 学会発表

国内、古田徹也、『意図と自由と責任の一筋縄ではいかない関係』、第20回東京大学生命科学シンポジウム、東京大学駒場キャンパス、オンライン開催、2020.10.31

国内、古田徹也、『言葉が表情をもつとはどういうことか——多義性についての一視座』、基礎言語学研究会設立シンポジウム、オンライン開催、2021.3.27

国内、古田徹也、『研究に「倫理」が必要な理由』、日本発達心理学会第32回大会シンポジウム「研究倫理をどう考える：原理、行動、執筆・投稿に向けて」、オンライン開催、2021.3.29

国内、古田徹也、『前期ウィトゲンシュタインにおける「意志」とは何か』、日本哲学会第80回大会学協会シンポジウム「論理と倫理：『論考』100年を機に」、オンライン開催、2021.5.16

国内、古田徹也、『偶然とアイロニー：英米圏の現代哲学の一断面をめぐって』、比較思想学会第48回大会シンポジウム「運命と偶然」、オンライン開催、2021.6.26

国内、古田徹也、『『ドイツ文化事典』について——哲学との関連の下で』、『ドイツ文化事典』刊行記念シンポジウム、オンライン開催、2021.7.18

国内、古田徹也、『日本語の「やさしさ」と「豊かさ」の緊張関係について』、第13回産業日本語研究会シンポジウム、オンライン開催、2022.2.22

#### (6) 啓蒙

古田徹也、『自由で民主的な社会の基盤としての「理由の説明」』、『東京大学大学院人文社会系研究科・文学部ウェブサイト』、2021.1

#### (7) 会議主催（チェア他）

国内、『現代思想 総特集＝ウィトゲンシュタイン（2022年1月臨時増刊号）』合評会、主催、オンライン開催、2022.3.13

#### (8) 総説・総合報告

古田徹也、『倫理学は「運」をどう扱うべきか』、『文化交流研究』、第33号、21-29頁、2020.3

#### (9) マスコミ

『『自粛を要請』『新しい生活様式』——新たな言葉が“自粛警察”を増やす？』、『本をひらく』、NHK出版、2020

『合理的判断だけを追求すれば、自分の人生を手放すことになる』、『WIRED.jp』、2020.3.25

『濃厚接触で何を連想する？ 哲学者が考えるコロナの言葉』、『朝日新聞デジタル』、2020.4.21

『“新型コロナ禍”で日本社会は？ 哲学&倫理学・思想史の視点から見る“今”』、BSフジLIVE「プライムニュース」、BSフジ、2020.4.30

『相互監視が残した傷』、『共同通信配信記事』、2020.5

『（にじいろの議）新しい状況と新しい言葉 吟味するのは私たち』、『朝日新聞』、2020.5.20

『匿名の私的制裁許すな——古田東大大学院准教授に聞く』、『高知新聞』、2020.7.5

『不確実性へ「溜め」足りず』、『山陰中央新報』、2020.7.8

『誤用の自由ときらめき』、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.9.3

『綺麗事突き放す「ガチャ」』、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.9.17

『型崩れした見出しに危惧』、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.10.1

『空虚さ 慣れてはいけない』、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.10.15

『ものの呼び名が表す姿』、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.10.29

「責任逃れの「〇〇感」」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.11.12

「〇〇感、独特の面白さも」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.11.26

「卒論、作法に頼るよりも」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.12.10

「「かわいい」に隠れた苦み」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2020.12.24

「なんのメッセージもない言葉」、「絶版本」『かしわもち 柏書房のwebマガジン』、柏書房、2021.1.4

「複雑さに見合う見出しを」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.1.14

「「自粛を解禁」の奇妙さ」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.1.28

「不穏な現実と共に生きる」、『共同通信配信記事』、2021.2

「呼び名が生む理不尽」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.2.11

「哲学者が危機感をもつ「コロナ」と「言葉」の関係」、「SIGHTRADIO 渋谷陽一」といとうせいこうの話せばわかる！政治も社会も」No.79、2021.2.15

「昔がなくなっちゃう！」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.2.25

「伝統も変化も踏まえつつ」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.3.11

「本当の「社会人」とは」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.3.25

「役割を自称する意味」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.4.8

「「言葉を選びとる」を諦めない 哲学者・古田徹也さん」、『西日本新聞、文化面』、西日本新聞社、2021.4.21

「常用漢字「まん延」の理由」、『朝日新聞朝刊、文化・文芸面』、朝日新聞社、2021.4.22

「ニュースの見出しと「言葉の実習」」、『アステイオン』第94号、CCCメディアハウス、2021.5

「「自由」「自主」「自立」 大事な価値の実質失う」、『西日本新聞、文化面』、西日本新聞社、2021.5.10

「土地の名を病に使うなら」、『朝日新聞朝刊、文化面』、朝日新聞社、2021.5.13

「比喩的表現に満ちた世界」、『朝日新聞朝刊、文化面』、朝日新聞社、2021.5.27

「ウィトゲンシュタインの全貌と「急所」を 哲学者・古田徹也さん、初学者向け解説本」、『朝日新聞夕刊、特集面』、朝日新聞社、2021.6.2

「(論の芽) まん延、改ざん、ねつ造—交ぜ書きはおかしい? 東大准教授・古田徹也さんに聞く」、『朝日新聞朝刊、オピニオン面』、朝日新聞社、2021.6.3

「「説明・言い換えを」3割超 3密・ステイホーム—コロナ関連8語 文化庁世論調査」、『朝日新聞 2021年9月25日付朝刊1面』、朝日新聞社、2021.9.25

「コロナ禍において必要な言葉の吟味」、『NHK ラジオ第一放送「Nらじ」』、日本放送協会、2021.10.21

「東京と生活史に導かれて——岸政彦編『東京の生活史』(筑摩書房)刊行を機に」、『週刊読書人』第3416号、2021.11.19

「今年の収穫」、『共同通信配信記事』、2021.12

「コロナ禍で生まれた言葉を考える」、『NHK (総合・Eテレ)「視点・論点」』、日本放送協会、2021.12.27

「言葉の歴史を辿り直す意義」、『Voice』9月号、PHP研究所、2022.8

#### (10) 翻訳

個人訳、Rosalind Hursthouse、"Normative Virtue Ethics"、古田徹也、「規範的な徳倫理学」、『現代倫理学基本論文集Ⅲ：規範倫理学篇②』、勁草書房、2021.8

監訳、David Gauthier, T. M. Scanlon, G. E. M. Anscombe, Michael Slote, Rosalind Hursthouse、"Why Contractarianism?", "The Structure of Contractualism", "Modern Moral Philosophy", "Agent-Based Virtue Ethics", "Normative Virtue Ethics"、古田徹也、『デヴィッド・ゴティエ「なぜ契約論か?」、T・M・スキャンロン「契約主義の構造」、G・E・M・アンスコム「現代道徳哲学」、マイケル・スロート「行為者基底的な徳倫理学」、ロザリンド・ハーストハウス「規範的な徳倫理学」』、『現代倫理学基本論文集Ⅲ：規範倫理学篇②』、勁草書房、2021.8

監訳、Cristine Korsgaard, Barbara Herman, R. B. Brandt, R. M. Hare、"Kant's Formula of Universal Law" (1985), "Making Room for Character" (1996), A Theory of the Good and the Right (1979), "Ethical Theory and Utilitarianism" (1976)、田原彰太郎、圓増文、水野俊誠、『クリスティン・コースガード「カントの普遍的法則の方式」、バーバラ・ハーマン「性格のための余地を設ける」、R・B・ブランド「理想的規則功利主義(『善と正の理論』より抜粋)、R・M・ヘア「倫理学理論と功利主義」』、『現代倫理学基本論文集Ⅱ：規範倫理学篇①』、勁草書房、2021.12

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

セミナー、NHK 文化センター町田教室、「人生にとって運とは何か」、2020.2

非常勤講師、熊本大学、「ウィトゲンシュタイン入門」、2020.2

非常勤講師、明治大学、「コミュニケーションの哲学」、2020.4～2020.9

セミナー、NHK 文化センター横浜ランドマーク教室、「ウィトゲンシュタイン入門——像の呪縛をめぐって」、2021.2

特別講演、福岡市東図書館、「〈言葉を大切にする〉って何をする事？」、2021.3

特別講演、東京都立西高等学校、「倫理学とはどのような学問か」、2021.3

セミナー、朝日カルチャーセンター、「ウィトゲンシュタイン入門」、2021.7～2021.9

セミナー、出版文化産業振興財団（JPIC）、「言葉を使うことの倫理」、2022.2

セミナー、朝日カルチャーセンター、「いつもの言葉を哲学する」、2022.5

セミナー、三鷹市民大学、「暮らしの中の言葉を哲学する」、2022.6

セミナー、かわさき市民アカデミー、「人生にとって運とは何か」、2022.6

セミナー、朝日カルチャーセンター、「ウィトゲンシュタイン入門——『論理哲学論考』を読む」、2022.7～2022.9

## (2) 学会

国内、日本倫理学会、評議員、2019.4～

国内、日本哲学会、評議員、2021.4～

国内、比較思想学会、評議員、2022.4～、編集委員、2022.6～

## (3) 行政

文部科学省、文化庁、文化審議会臨時委員（国語分科会）、2021.4～